

雪わたり

宮沢 賢治/著 堀内 誠一/画 福音館書店



「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」雪がすっかりこおった野原を四郎とかん子が歌いながら行くと、森の近くで小ぎつね紺三郎に出会いました。ふたりは紺三郎から月夜の晩に行われる幻燈会の入場券をもらいます。

火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン/作 佐藤 涼子/訳 評論社



ある冬の朝、ヒキガエルのウォートンは、おばさんの家におかしをとどけに行くところ、こわいミミズクにつかまってしまいました。ミミズクは、次の火曜日のごちそうにウォートンを食べてしまうと云うのです。はたして、無事ににげ出すことができるでしょうか。

ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ/作 瀬田 貞二/訳 評論社



ある日、ロバのシルベスターは、不思議な赤い小石を見つけました。それは、なんでも願いのかなうまほうの小石でした。ところが、おなかをすかせたライオンにおそれそうになったシルベスターは、あわてて、とんでもない願い事をしてしまったのです。

チョコレート工場の秘密

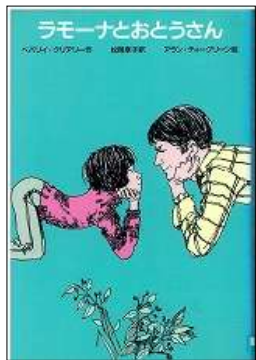
ロアルド・ダール/作 田村 隆一/訳 評論社



ワンカ氏のチョコレート工場は世界一有名なのに、働く人のすがたが一人も見あたりません。その不思議な工場に、金のカード入りチョコレートを当てた五人の子どもたちが招待されました。ところが、見学の間に一人また一人とすがたが消えていくのでした。

ラモーナとおとうさん

ベバリイ・クリアリー/作 松岡 享子/訳 学習研究社



ラモーナは好奇心がいっぱいで想像力ゆたかな女の子。お父さんが失業し元気がないすがたを見ると心配でたまりません。コマーシャルに出れば自分もお金をかせげるかと考えたり、たばこで肺がまっ黒になるのを知ってお父さんのたばこをやめさせようとしたりします。

いっぼんの鉛筆のむこうに

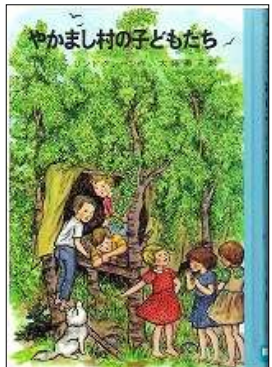
谷川 俊太郎/文 坂井 信彦ほか/写真 堀内 誠一/絵 福音館書店



スリランカで黒鉛がほり出され、鉛筆のシンになります。アメリカで育った木が板になって、船で日本に運ばれます。そして日本の工場で鉛筆が作られ、店で売られます。いっぼんの鉛筆ができるまでには、たくさんの人たちがかわっていることがよく分かります。

やかまし村の子どもたち

アストリッド・リンドグレーン/作 大塚 勇三/訳 岩波書店



やかまし村には家がたったの三軒しかありません。子どもは女の子三人と男の子三人の六人だけ。となり村にある学校に通うのも、ほし草おき場でねたり、かくれ場所や遊び小屋を作ったりして遊ぶのも、いつも六人いっしょです。楽しいスウェーデンのお話。

きえた犬のえ ぼくはめいたんてい 1

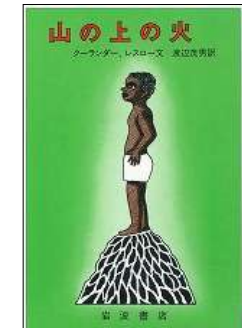
マージョリー・W・シャーマツ/文 光吉 夏弥/訳 マーク・シマント/絵 大日本図書



パンケーキが大好きな男の子ネートは、名たんていです。ある日、仲良しのアニーがかいた犬のフングの絵がなくなってしまいました。アニーからたのまれてへやへ行ってみるとたしかに見あたりません。ネートはさっそく推理を開始しました。

山の上の火

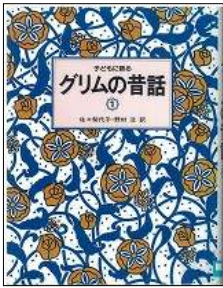
H・クーランダー、W・レスロー/文 渡辺 茂男/訳 岩波書店



村への帰り道、男たちが全員いるか人数を数えました。でもどの男も自分を数えわすれて一人足りないことと大さわぎになる「アディ・ニハアスの英雄」や、寒い山の上で一晩中立ったままですごせるか、めしつかいと主人がかけをする「山の上の火」などエチオピアの昔話の本。

子どもに語るグリムの昔話 1

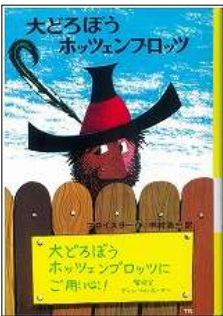
佐々 梨代子, 野村 法/訳 こぐま社



王さまから、わらをつむいで金にしなれば命はないぞと言われたむすめが、目の前にあらわれたこびとに助けてもらう「ルンベルシュティルツヘン」。おなべからあふれだしたおかゆが町中をうめつくしてしまう「おいしいおかゆ」などグリム兄弟が集めたドイツの昔話集。

大どろぼうホッツェンブロッツ

オトフリート・プロイスラー/作 中村 浩三/訳 偕成社



おばあさんの大切なコーヒーひきをぬすんだのは、コショウピストルと七本の短刀を持った大どろぼうホッツェンブロッツ。カスパールとゼッペルは取り返そうとついせき開始。でもぎやくにつかまって、大魔法使いに売りとばされることになってしまいました。

くまのパディントン

マイケル・ポンド/作 松岡 享子/訳 福音館書店



南米ペルーからロンドンにやってきたクマのパディントン。ひょうなことから、ブラウンさん一家とくらすことになりました。パディントンがかしパンを食べても、お風呂に入っても、デパートに行っても、なぜかいつも大そうどうになってしまうゆかいなお話です。

保護者の方へ

このリストには、小学校3・4年生が読んで楽しいと思われる本、この時期の子どもたちに読んでほしい本を12冊紹介してあります。これらの本を手がかりにして、子どもたちが読書の魅力を味わい、さらにいろいろな本への関心を広げていければ幸いです。

また、自分からなかなか本を手にしないうちのお子さんには、保護者の方が本のおもしろさを話してあげたり、出だしを読んであげたりして、興味を引き出すことも大切なことかと思えます。

そして保護者のみなさんからもお子さんと一緒にリストの本をお楽しみいただき、本を通してお子さんとの心のつながりがさらに豊かに広がることを願っています。

先生方へ

新潟市でも、朝読書を行う学校が多くなりました。その時どんな本が向いているのか、このリストが一つの参考になればと考えて作りました。子どもたちが読んで楽しいと思う本をリストアップしてあります。もちろん、これ以外にも楽しい本がたくさんありますので、お探しの場合はいつでも図書館にご相談ください。

子どもたちが読書に親しみ本好きになる一番のきっかけは、おうちの方やまわりの大人、学校の先生や司書の皆さんが本を紹介してあげることではないでしょうか。

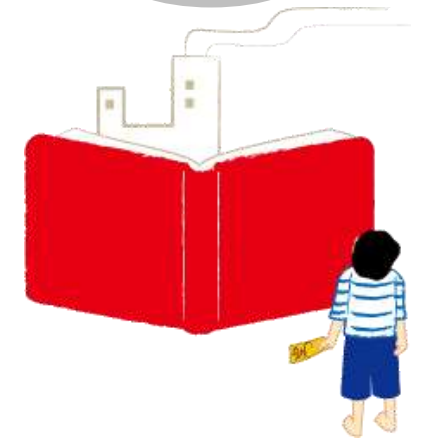
このリストを、子どもたちと本をつなぐ際の参考にしていただければ幸いです。

西川図書館ブックリスト

ほんのとびら

小学校3・4年生向け

その1



- ◆^{にしかわ}西川図書館（学校図書館支援センター）
〒959-0422 新潟市西蒲区曾根 2046 番地
電話：0256-88-0001 FAX：0256-88-2458
- ◆^{いわゆる}岩室図書館
〒953-0132 新潟市西蒲区西中 889-1
電話：0256-82-4433 FAX：0256-82-4635
- ◆^{かたひがし}潟東図書館（潟東ゆう学館 1 階）
〒959-0505 新潟市西蒲区三方 10
電話・FAX：0256-70-5141
- ◆^{まさ}巻図書館
〒953-0041 新潟市西蒲区巻甲 4262-1
電話：0256-73-5066 FAX：0256-73-6790